

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 I III 】
2 実施対象者	鹿嶋市立中野東小学校第4学年から第6学年児童及び保護者，地域 4年生（37名），5年生（49名），6年生（41名）， 保護者，地域（12名），教育委員会関係（6名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① <u>教科名</u> （総合的な学習の時間） ② <u>行事名</u> （パラリンピアン講演会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○【第4学年】パラリンピアンとの交流（講演及び実演）を通して，障害者も健常者も創意工夫をすることで，同じスタートラインに立つことができるといった，パラリンピックの意義を理解することができる。 ○【第5学年】パラリンピアンとの交流（講演及び実演）を通して，夢をもつことで困難を乗り越えることができたり，大きな喜びを感じることができたり，人の心を揺さぶることができたりするといった大きな力があることを理解することができる。 ○【第6学年】パラリンピアンとの交流（講演及び実演）を通して，困難があっても諦めず，自分の夢の実現に向かって立ち向かう強い意志をもつことの有用性を理解することができる。
5 取組内容	(1) 基本的な考え方 ◇ 本校全体で目指していること 本校では、『三つの「あ」（あいさつ，安全，あきらめないでがんばる）のキーワードの基，学ぶ意欲に満ちた，心豊かでたくましい児童の育成を目指している。 ↓ 本事業を推進し「パラリンピックの意義」を考えたり，「パラリンピアンの生き方」にふれたりすることで，各学年の目標に迫る。 (2) 事前学習 ◇ 第4学年 これまで，アイマスク体験や展示体験などを通して，「福祉ってどんなこと？」「障害をもっている人が助けてほしいことってどんなこと？」など，みんなが幸せになるためには，助け合うことが大切であることを学んでいる。 ◇ 第5学年 1学期の遠足でキッサニアに行き，様々な職業体験を行った。また，

年間を通して、本校敷地内のたんぼで米作りを行い、農業について学んでいる。さらに、2学期は、東日本震災の復旧・復興支援として、被災地の総合型地域スポーツクラブ支援やスポーツによる被災地の子どもたちの心のケア活動等の支援事業「スポーツ笑顔の教室」で元湘南ベルマーレ、京都パープルサンガ（現京都サンガ）で活躍した加藤大志さんに来校していただき、加藤さんの「夢」について講話をいただき、自分自身の「夢」についてじっくりと考えることができている。

◇ 第6学年

自分の関心のある職業について調べたり、様々な職業の方からお話をいただいたりしてきた。特に2学期は、ウエディングプランナー、IHクッキングヒーターの発明者などをゲストティーチャーとして招聘し、「夢の実現に向けて大切にしたいこと」「人の役に立つ仕事をする喜び」などについて講話をいただいた。このような活動を通して、自分の将来の夢について少しずつ現実味を感じるようになってきている。

(3) 直前の学習

これまでの自分たちの活動を振り返るとともに、「パラリンピックの意義や歴史」「ウィルチェアーラグビーとは」「パラスポーツの種目」などについて担任から説明を受け、必要最小限の予備知識を持てるようにした。

(4) 当日の学習

期日：平成30年12月19日（水）10：25から12：05

講師：一般社団法人

日本ウィルチェアーラグビー連盟 三阪 洋行 氏

内容：○三阪選手入場

○開会行事

○三阪選手の自己紹介とウィルチェアーラグビーの紹介

○実演・体験

○講演「パラスポーツの可能性～パラリンピックが教えてくれたこと～」

○閉会行事

○三阪選手退場



三阪選手入場



自己紹介とウィルチェアーラグビー紹介



実演・体験（タックル体験）



休憩時間時の三阪選手とのふれあい



講演



三阪選手退場

6 主な成果

○実施後のアンケート結果（平成30年12月19日実施：127名）

質問項目	4	3	2	1
パラリンピックに興味がありますか	50.6	37.9	10.3	1.1
社会や人のために役に立つことをしたいと思いますか。	64.4	29.9	2.3	3.4

この事業を通して、94.3%の児童が、将来社会や人のために役に立つことをしたいと肯定的に回答している。

○児童の感想

- ・ウィルチェアラグビーは、障害が重い人、軽い人、男女混合でだれでも一緒に楽しめると聞いて、思いやりや優しさがつまっているスポーツだなと思いました。（女子児童）
- ・三阪選手は、続けることが大事だと言っていました。僕は、建築士になりたいです。勉強などが大変でもしっかり続けて自分の夢を叶えたいと思いました。（男子児童）

7 実践において工夫した点（事業の特色）

○本事業が一過性のイベントで終わらないように実施対象学年の総合的な学習の時間の取組の中に本事業を位置付け、一連の学習として実施した。また、同じ内容の学習であるが、それぞれの総合的な学習の時間のめあてを設定して実施した。

○事前に講師である三阪選手と連絡を密に取り、三阪選手の講演内容、実演内容を把握し、その内容を参考にめあてを設定し、三阪選手とも共有を図った。

○三阪選手を本校に招待する際、車いすでの移動がしやすいように、簡易スロープを設置した。



8 主な課題等

○当初は全校児童での講演会・実演会を計画していた。しかし、講演内容や実演内容を考えると、1から3年生には発達段階的に難しいと判断した。今後の課題として、1単位時間の中で講話と実演（体験）を行うなど、発達段階に応じた事業計画や学習内容を考えていく必要がある。

○児童にとって貴重な体験となるため、一過性の取組として行うのではなく、総合的な学習の時間の年間計画の中に位置付けたり、関連する内容項目での道徳を実施したりすることで、児童の豊かな心の育成につながると考える。

9 来年度以降の実施予定

○来年度は、本市では全ての小学校を対象に「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」として、オリンピックまたは、パラリンピアンを招聘した事業が開催される。今回の事業での成果を振り返り、次年度の計画を立てていきたい。